



連携部門の組織名がかわりました

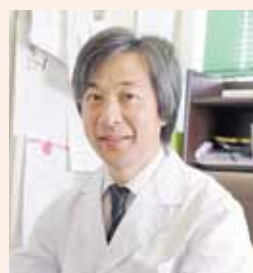
医療連携・総合相談センターは開設から2年を経て、効率的な業務体制の構築を目的に給食栄養・医療連携・医事相談3部門に分割し、連携部門である医療連携係（前方連携）と退院支援係（後方連携）は「医療連携センター」として生まれ変わりました。

国がめざす地域包括ケアシステムの構築や医療と介護機能の再編が進む中、当院は特定機能病院として高度急性期・高度先端医療・高度救命救急、専門的外来などの医療提供が求められています。そのため、非紹介受診を抑制し、今まで以上に各医療機関からの紹介、医療連携係経由の新患外来予約の割合を増加させていきたいと考えております。

また、今後は救急や手術など急性期治療が終了したら、次の療養先へ円滑に移行するため、転院先医療機関の確保やかかりつけ医への移行、在宅ケア機関とのさらなる連携を行っていかねばなりません。

当院は昭和25年に開院以来、道民の皆様の要望に応え、地域医療の発展に貢献してきておりますが、新たな役割機能を発揮するため、今年度から病院西棟の工事も始まり、病室は念願の個室の増加と6人部屋の4人部屋化を図るとともに、外来化学療法室や治験センター、リハビリ室も整備予定です。平成29年度の西棟完成後は、南棟、北棟、中央診療棟の改修も計画しており、ハード面でも診療環境を大きく改善できるものと思われます。本号では、新組織の改編に伴い、改めて連携部門の業務を周知させていただき、医療機関の皆様からの期待に少しでも応えられる体制にしていきたいと考えております。

なお、当院の外来担当医一覧表をお送りしますので、当院との連携業務の一助にいただければ幸いです。



医療連携センター長
齋藤 豪

札幌医科大学附属病院はこんな病院です

当院は、医科系大学附属の総合病院として、昭和25年の開院以来、一貫して道民の皆様の健康増進と本道の医療・医学の発展に中心的役割を担う中で、厚生労働大臣から承認された特定機能病院として、医療資源をより有効に活用し良質な医療を効率的に提供するため、継続して地域等の医療機関で扱うことが難しい高度医療が必要な症例を扱うほか、

- ・高度救命救急センター
- ・災害拠点病院（基幹災害拠点病院）
- ・エイズ治療拠点病院（エイズ治療ブロック拠点病院）
- ・がん診療連携拠点病院
- ・肝疾患診療連携拠点病院 等 に指定されています。

最近の高度かつ先進的な治療としては、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」や画像診断と手術を融合した「ハイブリッド手術室」などの最新医療設備の導入、遺伝子診断に関する「臨床遺伝外来」の開設や脳梗塞・脊髄損傷患者に対する再生医療の治験など、先端的医療を展開しています。

また、教育研修の場として臨床教育や研究の中核的機能を有し、多くの優秀な医療人の育成や医師派遣により遠隔地の多い本道における地域医療の発展についても大きな役割を担っています。

数字で見る札幌医科大学附属病院の姿【平成26年度の統計から】

設備面 ・面積 64,522㎡（参考 札幌ドーム建築面積：55,168㎡）
・許可病床数 938床（一般：890床、精神：42床、結核：6床）

患者数 ・入院延患者数：290,482人 ・外来延患者数：479,797人 ・手術数：7,296人

人員配置 ・医師：571人（研修医含） ・歯科医師：27人（研修医含） ・薬剤師：52人
・看護師：866人（准看護師含） ・診療放射線技師：54人 ・管理栄養士：6人
・事務員その他：373人 合計：1,949人

公的医療機関への医師派遣 ・1,298件（平成25年度）

附属病院の1日

新規入院患者数

46.7人
*一般入院、及び救急入院



1日平均入院患者数

795.8人



1日平均手術数

29.9件

*手術室



1日平均外来患者数

1,966.4人

*複数科受診をカウント



平均在院日数（一般）

16.1日

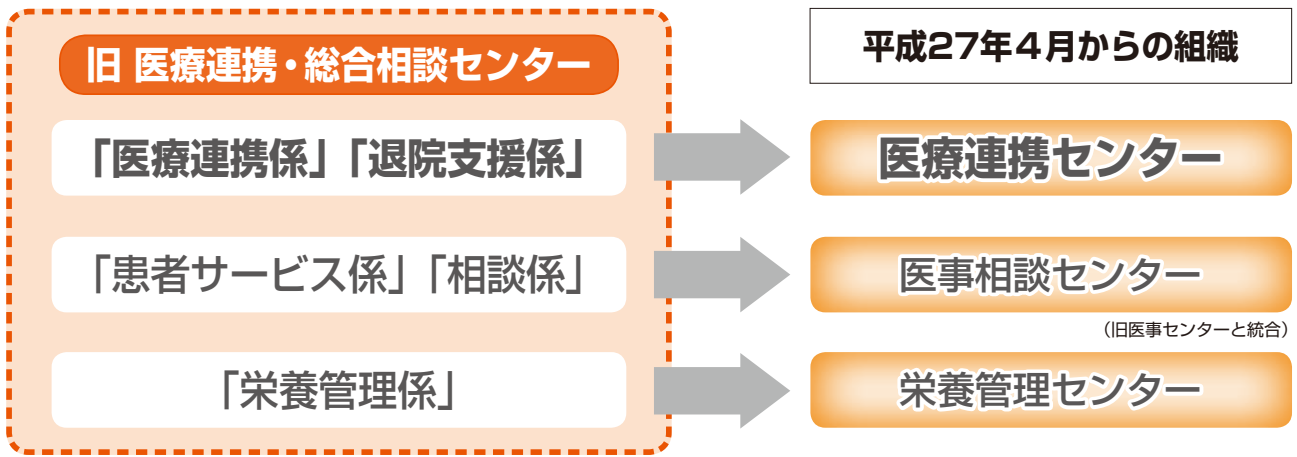
*入院期間のこと



INFORMATION

地域の医療機関等との連携や特定機能病院として高度な急性期医療など、良質で満足度の高い医療サービスを提供できるよう、「患者サービス係」「相談係」「医療連携係」「退院支援係」「栄養管理係」で構成していた「医療連携・総合相談センター」は、更なる効率的な業務体制の構築と連携体制の推進を図るため、平成27年4月から「医療連携係」と「退院支援係」は「医療連携センター」として独立しました。

改めて、今号では当センターの業務について、紹介いたします。



医療連携係

【お受けできる主な業務】

○新患外来診療予約

医療機関からご紹介される患者さんについて新患外来の診療予約を受け付けています。

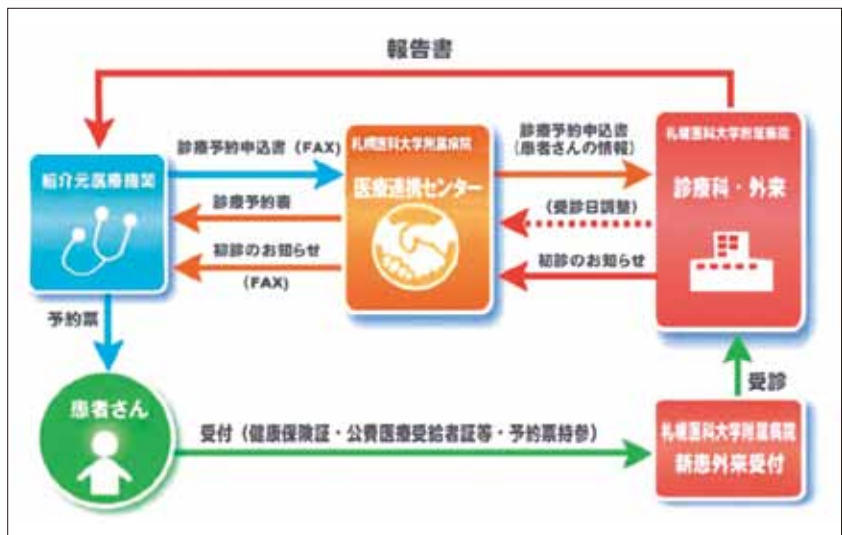
新患外来の診療予約を希望される場合は、当院のホームページ内の専用の書式「新患外来診療予約申込書」をダウンロードしてFAXによる予約（FAX受付時間：月曜日から金曜日（祝祭日を除く）の9:00～12:00、13:00～16:00）をお願いします。

なお、**患者さんご本人からの申込みは受け付けておりません**（臨床遺伝外来は除く）ので、**現在受診されている医療機関にご相談の上、医療機関から申込みをしてください**。（ただし、神経精神科は完全予約制のため患者さん本人からも神経精神科外来へ電話で予約を取ることができます）（次ページ参照）

また、お電話、メールでの予約の申込みは受け付けておりません。

新患外来診療予約のウェブサイト <http://web.sapmed.ac.jp/hospital/medical/mumhv60000002zmz.html>

担当 医療連携係 新患外来診療予約直通電話：011-688-9514



○地域連携クリティカルパス等運用に関する窓口対応

5大がん（胃・肝・肺・乳・大腸）地域連携クリティカルパスや北海道版脳卒中地域連携クリティカルパス（脳卒中あんしん連携ノート）の運用の事務局機能を担っています。

また、パスの推進を図るため、がん診療学術講演会を企画開催しています。

今年度の講演会は、更なるがん連携パスの啓蒙及び普及のため、先駆的な活動を行っている講師を道外からお呼びして開催する予定です。

5大がん地域連携パスのかかりつけ医は現在77医療機関となっており、新たに連携パスに参加登録を希望される医療機関はご連絡いただければ幸いです。

担当 医療連携係 011-611-2111 内線5121、5123

○文書照会依頼

当院では、円滑な医療連携のため、他機関からの依頼により**当院で作成した公的機関へ提出済みの文書**について、患者さんの了解が確認できる依頼書に基づき、**医療機関等から文書の照会**に対応しています。

◇**対象となる書類**：照会の対象となる書類は次のとおりです。

- ・介護保険申請・更新に伴う「主治医意見書」
- ・障害者手帳等の申請・更新に伴う「診断書・意見書」
- ・特定疾患医療受給者証の申請・更新に伴う「臨床調査個人票」
- ・年金受給者の再認定に伴う「診断書（障害者用）」

◇**照会方法について**

文書の照会をする場合は、当院のホームページ内の専用の書式「文書照会依頼書」をダウンロードして、**医療連携係**あてに郵送又はFAXでお送りください。

なお、メールでの受付は行っておりませんので、ご注意ください。

文書照会依頼のウェブサイト

<http://web.sapmed.ac.jp/hospital/medical/mumhv60000005ex3.html>

担当 医療連携係：011-611-2111 内線5123、3132

○**セカンドオピニオン外来について**

当院では、セカンドオピニオン（第二の意見）を求める患者さんやそのご家族に対して、既に診療を受けている医療機関からの紹介状と必要な資料に基づき、当院の医師から参考となる意見や判断を提供するセカンドオピニオン外来を開設しております。

◇**ご用意いただくもの**：主治医からの紹介状・画像・検査資料・相談同意書（ご家族だけで面談の場合）等

◇**料 金**：1回 60分以内 21,600円（消費税込）

◇**申 込 方 法**：当院申込書にご記入のうえ、FAXでお申込ください。

（申込書は当院ホームページからもダウンロードできます。）

申込書を提出された方へご連絡後、日程を決定し、各診療科外来にてご相談をお受けします。

セカンドオピニオン外来のウェブサイト

<http://web.sapmed.ac.jp/hospital/guide/mumhv60000002omq.html>

担当 医療連携係：011-611-2111 内線5123、3132

○**その他：地域連携担当者会議**

医療機関同士の連携を具体化するため、当院の医療機能及びセンターの今後の医療連携の方針を周知し、連携推進を図るための協議の場として、当院との連携実績に基づき、各医療機関の施設長及び連携部門担当者（事務職、社会福祉士、退院調整看護師等）と一堂に会し、医療機関情報の共有を図る機会として開催しています。

今年度の会議では、医療連携をテーマに参加者との討議も予定しております。

担当 医療連携係：011-611-2111 内線5121

以下は、医療連携係では**【お受けできない業務】**です。

○**通常受診**

当院は特定機能病院であるため、初診の患者さんで他の病院等からの紹介状をお持ちではない場合は、初診料とは別に保険適用外の**初診時一部負担金（3,240円）**をご負担いただいております。

受診については、お電話、メールでの申込みは受け付けておりませんので、受診を希望される日（月曜日から金曜日・祝祭日を除く）の午前8：45～午前11：00までに直接当院に来ていただき、受け付けしてください。

担当 医事係：011-611-2111 内線 3162

○**神経精神科外来でお受けする診療予約**

◇**新患受診**：月曜日から金曜日（祝祭日を除く）の14:00から16:00までに代表電話 011-611-2111 内線3533（神経精神科外来）にお電話で予約してください。

◇**もの忘れ外来**：月曜日（祝祭日を除く）の15:00から15:45までに専用電話番号 011-611-3004にお電話で予約してください。なお、かかりつけの病院又はクリニックからの紹介状が必要となります。

◇**GIDクリニック（性同一性障害専門外来）**：初めての受診は予約が必要です。予約の方法は当院HP（トップページのお知らせ欄）で確認してください。

○**再来予約**：同じ診療科で一年以内に受診歴がある場合……各診療科外来にご相談ください。

月曜日から金曜日（祝祭日を除く）の14:00から15:30までに代表電話 011-611-2111に電話をして、予約したい診療科の外来を呼び出し、ご相談ください。（再来の予約は診療科によって取れる科と取れない科があります。）

（再来とは：【例】 婦人科での最終受診月が平成26年5月で、再度、婦人科を平成27年5月中に受診する場合は**【再来】**となります。）

【その他】

○神経内科の受診を希望される場合は、まず、お近くの医療機関で診察を受けられ、紹介状及びMRI、CTデータ等の検査資料を持参の上、来院してください。(医療機関を通しての予約をお勧めします)

○入院の依頼は、主治医から各診療科の病棟医長あてにご相談をお願いします。

○当日の予約、検査のみの予約、入転院の予約及び入院相談は受け付けておりませんのでご注意ください。

○当院に入通院している患者さんについての情報を当センター経由でFAXされる際、個人情報漏洩等防止の観点からマスキングして送信する場合は、患者氏名等の確認のため、必ず送信後に電話をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

退院支援係

退院支援係 2年間のあゆみ



退院支援係 奥山亜由子（看護師）

退院支援係に退院調整を担当する看護師3名と社会福祉士1名が平成25年度に配置され、ようやく2年が経ちました。

患者が抱える退院困難要因を早期から把握し支援を開始するスクリーニングシステムが軌道にのり、また、外来からの在宅調整や療養相談の増加、院内外に退院支援係の存在が周知されたこともあり、平成26年度の退院調整依頼件数は1,474件でした。

平成26年度を振り返ってみると、がんや難病、高齢患者の在宅調整のニーズが増加し、ケアマネージャー、訪問看護師、在宅療養支援診療所の医師などの在宅支援チームと退院前カンファレンスを行い、患者と家族が望む支援を行って来ました。残された大切な時間を住み慣れた場所で家族やペットの温もりを感じながら過ごしたい、未だ小さい子ども達のお弁当を作り「行ってらっしゃい」「お帰りなさい」を伝えたい、子どもの結婚式までは生きて笑顔で送り出したい、認知症の母親の今後を一緒に決めるため母親との最期の語らいの時間を大切にしたい…。一人一人の患者の希望や事情を汲み取りながら、主治医と病棟看護師と在宅支援チームが一体となり、連携、協力しながら行っています。

患者の価値観、人生観、死生観に触れ、患者と家族の貴重な時間を大切にしたい！という支援チームの強い願いを繋いでいく大切な役割が退院支援係にはあることを実感しています。平均在院日数が短縮する中でも、患者の思いを大切にできるような、丁寧できめ細かい退院支援・退院調整を心がけています。

地域包括ケアシステムの推進により、病院機能が明確となり、今後、在宅医療への期待はますます大きくなっていくと予測されています。入院治療から在宅へ円滑に移行するためには、病院からの適切な情報提供と退院後の在宅支援チームとの連携が確認できる退院前カンファレンスが重要となってきます。退院前カンファレンスを継続的に持つことにより、お互いに顔の見える連携ができ、地域連携のネットワークが広がっていくことを目指していきたいと考えています。

今年度の新しい取り組みでは、訪問看護ステーションとの連携窓口としての機能強化を検討し「看看連携」の推進を計画しています。また、介護保険サービス利用者については、ケアマネージャーとの連携も強化していきます。新しい組織になっても、退院支援係の業務に変更はありません。

今後とも、各機関の方々からの要請に機動力よく応えられる連携窓口として、外来・入院患者の医療情報に関するお問い合わせ、当院医師との連絡調整のご希望、ケアマネージャー、訪問看護師、在宅療養支援診療所からの多岐にわたる照会・要望に迅速に responding していきますので、ご活用いただければと思います。なお、入院の依頼につきましては、主治医から各該当診療科の病棟医長あてにご相談ください。



【カンファレンスの様子】



【看護師 大谷（左上）、奥山（右上）
高橋（左下）、社会福祉士 本間（右下）】

トピックス 医師主導治験をご紹介します

《がんペプチドワクチン療法》

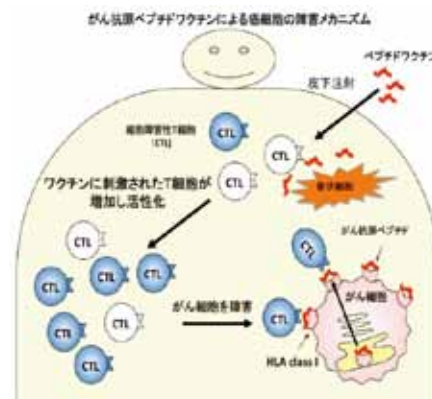
がんペプチドワクチン療法とは、身体が本来持っている免疫システムを活性化してがん細胞を排除することをねらった療法です。札幌医科大学第一病理（佐藤教授・鳥越准教授ら）は、がん細胞に発現している固有のがん抗原としてサバイピンを発見しました。

体の免疫システムが強く反応するサバイピンの一部がサバイピンペプチドになります。サバイピンペプチドは、Tリンパ球のHLA-A24によって認識されます（日本人では約60%でHLA-A24の発現が認められます）。したがって、HLA-A24が陽性であれば、膀胱がんに対して特異的ながん免疫を誘導することが期待され、サバイピンの発現していない正常の臓器・組織には免疫反応は起きないはずですので副作用の軽減も期待されております。

先行した第Ⅰ相試験では、重篤な副作用を認めず、安全性に関する確認がなされました。第Ⅱ相試験は有効性の確認を行うもので、膀胱がんの患者さんを対象にサバイピンペプチドによる「がんワクチン療法」の第Ⅱ相臨床試験（医師主導型治験）として71例の患者さんを対象に全国3施設（札幌医科大学附属病院、東京大学医科学研究所附属病院、神奈川県立がんセンター）で実施しております。（平成27年4月17日現在で49名の患者さんが投与を受けています。）

※ 本治験は厚生労働省科学研究補助金によって実施される医師主導治験です。

http://ganjoho.jp/public/dia_tre/clinical_trial/ct_list.html



参加基準 進行・再発膀胱がんで治験の参加を希望される患者さん

1. HLA-A24遺伝子が陽性
2. ゲムシタビンまたはTS-1（ティーエスワン）の治療を受けたが、効果がない、または副作用のために継続できない患者さん
3. 過去に免疫療法を受けたことがない患者さん
4. その他、適応条件に合う患者さん

膀胱がんの患者さんで、以下の条件を満たす必要があります。治験の参加にご興味がある場合には、下記の相談窓口までご連絡いただけますようお願いいたします。なお、条件に満たない場合にはご参加いただけませんので、ご了承ください。

ホームページ

<http://www.ec-pro.co.jp/chicken/>

問い合わせ先: 011-611-2111 (代表) 内線2691

札幌医科大学医学部病理学第一講座 がんワクチン相談係

治験調整医師：鳥越 俊彦（とりごえ としひこ）

相談受付曜日：月～金曜日 受付時間：9:00～17:00

治験実施診療科：札幌医科大学附属病院 消化器・総合、乳腺内分泌外科

治験責任医師：水口 徹（みずぐち とおる）

※治験は、原則として外来通院で行います。これは、体力があることを示す一つの指標となるからです。入院が必要な場合には、治験の継続は難しいことが予想されますが、詳細はご相談下さい。

※治験薬に係る薬剤費は一切かかりません。検査料・診断料につきましては、健康保険が適応されますので、ご加入の健康保険に応じた医療費はご負担いただけますが、高額医療制度を受けることも出来ます。

また、この治験では、生活保護の医療扶助は受けることができません。

《脳梗塞・脊髄損傷の後遺症軽減をめざす再生医療－自身の骨髄にある幹細胞で－》

＜脳梗塞・脊髄損傷とは＞

脳梗塞は脳卒中の一つで、脳血管の閉塞で脳細胞が壊死する病気です。梗塞の部位により、運動マヒ、失語症などの症状が現れ、重症なものでは意識障害や死に至るケースも少なくありません。脊髄損傷は、外力により脊髄が傷つ

くもので、交通事故や高所転落などのケガが原因の大半を占めます。脊髄損傷によって運動感覚障害、膀胱直腸障害、呼吸障害などの症状が現れます。いずれの疾患も後遺症を残すことが多いのですが、後遺症に対しての根本的な治療法は現在のところありません。

<後遺症に対する再生医療>

近年、細胞移植による再生医療の研究が世界的にも盛んに行われており、特に自己複製能と多分化能を有する幹細胞が実際に治療に応用されようとしています。我々はその幹細胞の一つである骨髄間葉系幹細胞の再生能力に注目しています。この骨髄間葉系幹細胞は、ヒトの骨髄中に0.1%の割合で存在し、神経系の細胞に分化可能であることが分かっています。当教室では、数多くの基礎研究を経て、平成19年から実際に脳梗塞の患者に対して臨床研究を行ないました。すなわち患者自身の骨髄液から間葉系幹細胞を分離、培養し、約1万倍に増やした後、自身に静脈内投与する治療をリハビリテーションなどの標準治療に追加して行い、後遺症の改善が認められました。この治療法は、自己の血清を用いて自己の細胞をそのままの形態を保ったまま培養し、自己に投与することから、免疫反応が生じにくく、安全性が高いと考えられます。

<骨髄間葉系幹細胞による再生医療：医師主導治験>

先の臨床研究の結果をふまえ、この骨髄間葉系幹細胞を用いた治療について、医師主導治験を当院で行っています。

脳梗塞は20～79歳の方で、①脳梗塞（ラクナ梗塞を除く）と診断され、現在入院中で治療を受けており、②発症後20日をめぐりに転院でき、③歩行や体を動かす動作には介助が必要または常に介護と見守りを必要とする方、脊髄損傷は20～70歳の方で、①損傷部位が頸髄であり、②発症後14日以内に転院できる方を募集しています。

このほかにも参加のためには詳細な適格基準があり、詳しくはホームページ等でご確認いただけます。

この医師主導治験において、患者は脳梗塞、脊髄損傷のいずれも点滴治療や手術治療などの急性期の治療が一段落したところで、治療を受けている病院の主治医からの紹介を受けて、当院に転院する流れとなります。転院し同意取得後、全身検査と細胞の培養を同時に開始します。全身の検査では、脳や心臓の血管の検査、腫瘍マーカー検査、胃カメラ、大腸カメラなど人間ドックと同等の詳しい検査を行います。一方、腸骨より30mlほど骨髄液を採取し、自身の血清を用いて専用の細胞調製施設(CPC)で培養を行います。細胞を約1万倍にまで増やすには2～3週間ほどかかります。そして全身に問題がなく、増やした骨髄間葉系幹細胞の品質が確認できた場合、静脈内に30分から1時間かけて点滴投与します。投与後も経過を観察するために当院に入院している必要があり、リハビリテーションなどの標準治療は継続します。目安として脳梗塞で投与後3か月、脊髄損傷で5か月の入院となります。

この治験には国からの研究助成金が充てられており、細胞培養などに係る費用について、患者さんの負担はありません。しかし、入院中に行う検査や使用する薬剤、入院費用などは、通常診療と同様に健康保険によりますので、一部負担があります。さらに通常の保険診療と同様に、高額療養費制度を受けることもできます。なお、この治験では、生活保護の医療扶助や交通事故による自賠責保険の支給を受けることができませんので、その場合の参加は難しくなります。

治験や骨髄幹細胞の詳細については、本学の治験ホームページをご覧頂るか、コールセンター、メールなどをご利用下さい。



【神経再生医療科スタッフ一同】

札幌医科大学附属病院
治験コールセンター

0120-265-016

ホームページ (平日9:00~17:00)

<http://web.sapmed.ac.jp/saisei/>

お問い合わせメール

脳梗塞治験
chiken-stroke@sapmed.ac.jp
脊髄損傷治験
chiken-sci@sapmed.ac.jp

ホームページ
QRコード



各種案内

■ 札幌医科大学附属病院の理念 ■

札幌医科大学附属病院は、患者さまに信頼、満足、安心していただける安全で質の高い医療を提供するとともに、高度な先端医療の研究・開発に取り組み、人間性豊かな優れた医療人の育成に努め、北海道の地域医療に貢献することを目的とします。

■ 札幌医科大学附属病院の基本方針 ■

- 1 医療サービスの向上を図り、患者さまに安全な医療を提供します。
- 2 患者さまの人権を尊重し、十分な説明と同意のもとに医療を行います。
- 3 国内外に評価される高度な診療や臨床研究を積極的にを行います。
- 4 教育を重視し、人間性豊かで信頼される医療人を育成します。
- 5 地域との連携を密にし、地域における医療、保健、福祉を支援します。



「医療連携センター」 ウェブサイト

URL

<http://web.sapmed.ac.jp/hospital/mpc/>



編集後記

「地域医療連携室」として平成17年度に新患予約の業務が、平成20年6月に退院調整看護師が1名配置され退院調整を開始しました。当時は、病床規模に比べ、連携部門の脆弱さから「日本一遅れている大学病院」と自虐ネタにしていたことを思い出します。平成25年度に組織が拡充できた時は、本当に感慨深いものがありました。医療連携係と退院支援係はそのまま新たに連携部門として独立しました。この2年間で、少しは医療機関の皆様からのご要望に応えられるようになっていませんか。前方・後方連携とも、取り組まなければならない課題は山積みですが、道民の期待に応えられる患者に優しい病院という、当院らしさを大事にしながらも、各医療機関の皆様の要望をうかがいながら、より良い連携のあり方を模索していきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

(退院調整看護師 高橋由美子)

札幌医科大学附属病院 医療連携センター

医療連携係(内線5121、5123、3132)、退院支援係(内線3193、5126、5127、5125)

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目

TEL: 011-611-2111 (代表) FAX: 011-621-2233